

題字
大島文雄先生

じんぶん

人 文

ヘルン文庫の蔵書『孺子歌圖』



巻頭特集

旧制富山高等学校開学100周年

旧制富山高等学校「誕生秘話」

同窓会長 米原 寛(史学昭和41年卒)… p 2

創学100周年記念の集い …… p 2

100周年記念講演と国際シンポジウム

教授 中島淑恵… p 3

100周年記念バスツアー

准教授 入江幸二… p 3

地域に選ばれる富山大学と人文学部を目指して

人文学部長 大西宏治… p 4

末原達郎先生の退官記念祝賀会

廣田(檜垣)まり(文人平成5年卒)… p 5

同期会のお知らせ(昭和51年度入学) …… p 5

林夏生先生を偲ぶ会

橋本明美(比社平成14年卒)… p 6

研究室から／東洋史

講師 林 美希… p 6

学位記授与式・祝賀会 …… p 7

体育会ヨット部から活動支援のお願い …… p 7

研究室から／ドイツ言語文化

教授 黒田 廉… p 7

卒業生進路状況 …… p 8

第9回 人文学部のあゆみ

准教授 入江幸二… p 9

新刊案内 …… p 9

同窓会総会、人文の集い、異動、訃報 …… p 10

総会記念講演

ヘルン文庫のことなど

中嶋(中尾) 圭子(中国語中国文学 昭和61年卒)

今年は旧制富山高等学校100周年の記念すべき年ですね。ヘルン文庫が富山に来てからも100年。昭和61年、卒業論文でヘルン文庫の蔵書『孺子歌圖』(Chinese Mother Goose Rhymes)を日本語に訳しました。中国のわらべ歌です。

講演では、その時の思い出や小泉八雲の作品の朗読、また、4月27日に富山八雲会主催の「ヘルン文庫が富山に来て100周年記念フォーラム」で檀ふみさんと共演したお話などをお伝えしたいと思います。

(会場日時等は p10をご覧ください。)

富山大学人文学部同窓会

〒930-8555 富山市五福3190

電話：(076) 445-6143

FAX：(076) 445-6142

E-mail :
alumni1@hmt.u-toyama.ac.jp

旧制富山高等学校「誕生秘話」

同窓会長 米原 寛（史学昭和41年卒）

大正七年（一九一八）には、時の政府原敬内閣の意を受けて「高等学校の修業年限は七年とする」七年制の高等学校制度が発足、教育改革が始まったのです。「七年制」とは、英国のパブリックスクールに範を求め、中高一貫の七年制を導入、尋常科四年と高等科三年で構成されました。特に尋常科に特色があり、「幼少の頃にこそ人格形成の基盤を作るのが肝要」との言によるものでした。富山においても、丁度時を得て岩瀬町の資産家である馬場はる氏から、祝賀金として「開学基金」の申し出があつて、一挙に開学の運びとなつたのです。大正十二年に旧制の富山高等学校が創校、翌十三年に開校、当時県立の旧制の富山高校は、なんと、東京に続いて富山が二番目に開学、時あたかも、皇太子（後の昭和天皇）の婚儀が挙行されるタイミングでもあり、「富山新報」には「朝野の名士千数百名が列席、学園、終日祝賀気分」と大々的に報道したのです。また、

旧制富山高校は、当時、県民の間で「大正デモクラシーの申し子」とも言われていたそうです。この慶事と相俟つて、新しい学府の創設に意欲を燃やしていた、富山市出身の豊かな学殖、謹厳誠実な人柄の南日恒太郎氏が初代の校長に就いたのです。折良く、丁度、馬場はる氏からの基金もあり、当時引く手あまたといわれた小泉八雲の蔵書「ヘルン文庫」を富山の地に誘致したいとの思いが実現したのです。大正十五年には、南日校長の存在もあつて、第一回全国七年制高等学校長会議が、この富山で開催されました。富山県の面目躍如たる出来事でした。旧制富山高校の創学当初の教育理念は、その後の富山大学人文学部を受け継がれ、全国で有為活躍している多くの優秀な人材を育んできました。かくて、我々同窓生が、開学以来百年のなかで培われた歴史と伝統に支えられて、富山大学の人文学部が存在しているのです。まことに誇りとすべきことと思います。

旧制富山高等学校

創学100周年記念の集い



集い実行委員長で富山市名誉市民・富山八雲会会長中尾哲雄氏による記念講演「蓮町の思い出」と作文コンクールの表彰式がありました。

北前船交易で栄えた岩瀬の廻船問屋・馬場家当主である馬場はる氏が、県知事に設置を陳情して建設基金を寄付。同じく岩瀬五大家の無償で提供しました。

それまで、帝国大学への入学が可能な旧制高校は全国に八校しかなく、富山県に七年制高等学校を開設し進学の道を開いたことは県内外の発展に大きな意義がありました。

昨年は、一九二三（大正一

二）年に富山大学人文学部の前

身にあたる旧制富山高等学校が

設立されてちょうど百年で

した。

昨秋九月一八日（月・

祝）、記念の集いが開催さ



会場は同校の跡地である富山市蓮町馬場記念公園内の富山市北部児童館。この児童館は旧ヘルン文庫を模した建物です。



作文コンクールは、馬場記念公園や地域の将来への思いをテーマに、地元荻浦小学校と岩瀬小学校児童から募集したもので入賞の三作品が朗読されました。

また、最後の卒業生の野村勲氏をはじめ七人の卒業生が、想い出を語りました。

旧制富山高等学校創学百周年記念事業実行委員会には、富山大学人文学部同窓会も参加し、副実行委員長を務めた米原寛会長が挨拶をしました。

旧制富山高等学校設立100周年記念事業 記念講演会および国際シンポジウム開催記

教授 中島 淑恵

令和六年二月十日、富山大学

人文学部第六講義室にて、旧制富山高等学校設立百周年記念事業として、記念講演会および国際シンポジウムが開催された。

残念ながら発起人である齊藤学部長は病氣療養中のため病室からのZoom聴講となったが、大西副学部長以下ワーキンググループのメンバーが一丸となつて準備を進めてきたものである。

齊藤学部長の挨拶の代読も含められた大西副学部長の挨拶の後、記念講演会として、京都大学教育学研究科の田中智子教授に、「旧制高校設立史のなかの富山高等学校―歴史的位置と意

義―」という論題でご講演いただいた。いわゆるナンバースクールの設立は多くの場合旧藩の

当主の財力によるところが多かったのに対し、富山高等学校は民間の篤志家からの寄附が中心

であること、全国でも珍しい七年制の男子校として発足したこともまた全国的なケースであったということが明らかにされた。とりわけ近県である金沢や新潟の事情

に鑑みても、富山高等学校が当時としても画期的であり、地方都市としては出色の中等教育機関であったことが指摘された。

このあと中島が旧制富山高等学校の至宝であるヘルン文庫の

紹介を行い、附属図書館の協力も得てヘルン文庫の訪問も行った。これに続けて、「旧制富山

高等学校の至宝ヘルン文庫を未来に生かす

来に生かす」と題して国際シンポジウムが行われた。まず、那須野絢子先生（常葉大学助教）が、「焼津における地域資源としての小泉八雲―静岡県の文学資産との比較を交えて―」として、焼津における小泉八雲の文学資産としての若年層を中心とした活用例についてお話しいただいた。次に、西成彦先生（立命館大学特任教授）「おしゃべりは耳の栄養、ハーンの耳から舌へ」として、これまでの先生のハーン研究の軌跡と関連して五感に訴えるハーンの諸相についてお話しいただき、最後にルイソロ・マルティネル先生（早稲田大学非常勤講師）から「プライスレスな至宝の眠る図書館 いかにして私はラフカディオ・ハーンの未刊行原稿を見つけたか」として、主に池田記念美術館収蔵の未公開資料についてお話しいただいた。

当日は南日恒太郎初代富山高等学校長の曾孫南日賢氏をはじめとして旧制富山高等学校ゆかりの方々、人文学部同窓会の皆様、富山八雲会の皆様、教職員・在学生の皆様にご来場いただき、活発な情報交換の場となった。

旧制富山高等学校100周年記念 バスツアー開催される

准教授 入江 幸二

二〇二四年三月二日(土)、旧制富山高等学校百周年を記念した

バスツアーが開催されました。黒田講堂を出発した一行は、まず旧制富山高等学校の跡地、蓮町の馬場記念公園に向かいました。公園の名は旧制富山高等学校設立に多額の寄付をした馬

場はるさんに由来します。

蓮町キャンパスへの駅でした。同学部は教養教育も担当していたので、一九六二年に文理学部が五福に移転するまでは教育学部、薬学部、工学部の富大生もここに通っていました。

公園内には「旧制富山高等学校・富山大学文学部正門跡」「馬場はる像」「ヘルン文庫跡」、旧制富山高等学校生を象徴する記念モニュメント「青冥万里像」などが点在し、「旧ヘルン文庫」を模したデザインの富山市立北部児童館が建てられています。児童館では、関連の展示パネルなどを見学しました。

次いでバスは岩瀬へ向かい、地震の影響で閉鎖中だった馬場家と森家の前を通過して、旧制富山高等学校の建物を一部移築したホテル古志及び龍光寺を見学しました。

その後富山市北新町の「富山県教育発祥の地」の記念碑を見て、ツアーを終了しました。



旧高等学校前駅の登校風景

今のライトレール蓮町（馬場

記念公園前）駅は、元の「高等学校前駅」です。この駅は旧制富山高等学校に隣接し、戦後は新制富山大学文学部いわゆる

地域に選ばれる

富山大学と人文学部を目指して

富山大学人文学部長 大西 宏治



二〇二四年四月に人文学部長に就任した大西宏治です。よろしく願います。現在、大学や人文学部の置かれている社会的状況は決して明るいものではないかもしれませんが、任期の間に明るい展望の一端でも見えるような取り組みをしたいです。

私の専門分野は人文地理学です。社会の様々な事象について地図など地域をとらえるツールを活用しながら研究を進めていく学問分野です。私は地理学の視点に立脚し、地域の様々な課題を検討したり、まちづくりの取り組みによって課題の解決を

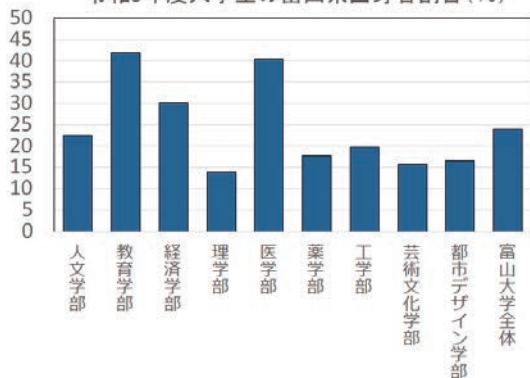
試みたりしてきました。さらに、大学教育の一環として大学生が自ら主体となって取り組むまちづくり活動に支援してきました。富山のまちをつかって、大学生がとらえた地域課題をまちづくりの活動を通して向き合ってみる取り組みに協力してきました。なぜ、そのようなことをするに至ったのか、これまであまり説明する機会がありませんでしたので、ここで説明させていただきます。

二〇一一年に総曲輪通り商店街に「まちなか研究室(MAGnet)」の設置を富山市に提案しました(二〇一八年に閉鎖となりました)。現在の中心商店街には多くの若者にとって魅力を感じるための手掛かりがありません。学生がまちに立ち寄る理由を創ること、まち

なかにこれまでにない賑わいを創出したいと考えました。また、学生がまちづくり活動としてやってみてみたいことを声にできれば、支援してくれる大人がいることを知ってもらいたいし、そのような活動を通じて、富山県外出身の学生に対して富山に愛着を持って、第二の故郷としてくれる学生を生み出したいと取り組みました。というのも、富山大学のおよそ七十五%の学生は富山県外出身者で構成されています。

他県からやってきた学生が富山大学での学びと富山での暮らしに満足してもらおうことが、富山大学の価値を高めることにつながります。

令和5年度入学生の富山県出身者割合(%)

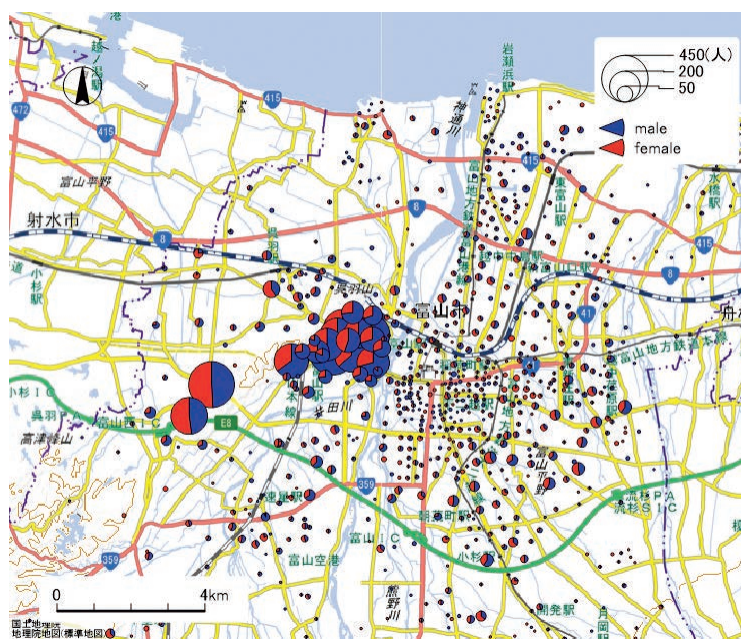


富山大学学生の富山県出身者割合
(富山大学資料により作成)

学生の学びについての満足は、教員が自分の専門分野に關してしっかりとした教育を行うことで達成されるはずですが、それに対して、まちへの満足についても大学として取り組めることがあるのではないかと考えています。七十五%の学生は富山大学の周りに暮らしています。かつての学生は神通川を超え、総曲輪や西町、中央通り、そして駅前に出かけて楽しんでいました。富山大学は五福にとどまり、そこをみて「富

山には何もなかった」といって卒業していく学生も少なくありません。それを学びの力で解消できないかと取り組んできました。

人文学部の学びの中にも県内のさまざまな場所と触れ合うことで達成されるものもあります。その取り組みを活かしながら、学生の満足する人文学部と富山での暮らしを創り出したいと思っています。学生の富山の満足感の高まる取り組みへの支援をお願いします。



富山市における大学生の居住分布 (2020年国勢調査により)

末原達郎先生の退官記念祝賀会

廣田(檜垣)まり (文化人類学平成5年卒)

りの木遣り歌で
一次会を締めま
した。

文化人類学研究室で一九九九年～一九九六年まで教鞭をとられた末原達郎先生が二〇二二年三月に龍谷大学を退職されました。同年一月十七日の最終講義「農学と人類学の境界を超えて」には、龍谷大学のご協力のもと、富山大学の卒業生もZoom参加し、懐かしい先生の声を聴くことができました。

九一年の調査実習地だった富山市岩瀬のホテル古志を貸し切り、山海の幸に舌鼓を打ちながら賑やかな会となりました。参加者の近況報告はもちろん、欠席した卒業生からもたくさんの方の寄せ書きが寄せられました。

迎えます。藤本先生・野澤先生と協力しながら、記念文集の作成や大同窓会を予定しております。同窓会へのご参加と文集への寄稿をお待ち致しております。(福岡市在住)

祝賀会はコロナ禍で延期となり、二〇二三年七月十五日待ちに待った開催となりました。お蔭で、赤阪先生の傘寿と重なり、サプライズで一緒に祝うことができました。当日は、末原先生ご夫妻、赤阪先生ご夫妻をはじめ、総勢三六人が参加しました。



同期会のお知らせ

(昭和五十一年度入学生)

文理学部文学科最後の入学生昭和五十一年度の方々への同期会開催のお知らせです。あれから五十年近く経ちました。年金受給の齢も経て、次の人生を歩み始める頃、一度集まり、学生時代を思い出せば、当時の元気が蘇るに違いないと、同期の有志(国文・藤井 哲学・中川・武田 中文・池田・笹井・甲斐)で語らい、同期会を計画しました。大げさな会ではありません。都合宜しければ、左記の要領でお集まりください。

記

日時：十月十九日(土) 十四時
場所：富山大学人文学部一階
第二講義室

参加予定の方は事前に甲斐まで連絡頂けると助かります。
kake66@outlook.jp

なお、当日十時より同窓会主催の「人文の集い」(講演と昼食会)が開かれます。こちらも是非ご参加下さい。(10頁参照)
同期会などの計画は同窓会にご相談ください。お手伝いします。

文化人類学同窓会のお知らせ

文化人類学研究室同窓会では、40周年を機に2020年から毎年ニューズレター『文人』を発行しており、今年もNo.5を掲載予定です。詳しくは研究室のホームページをご覧ください。



富山大学同窓会連合会

◎第15回(二〇二四年度) 富山大学同窓会連合会総会及び講演会のご案内

期日：七月十八日(木)
会場：電気ビル
日程：十八時～総会
十八時二十五分～講演会
十九時三十分～懇親会

講演会講師は人文学部准教授入江幸二先生です。皆様奮ってご参加ください。

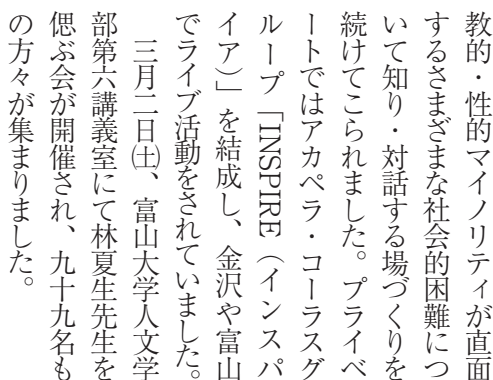
◎ホームカミングデーのご案内
期日：十月二十六日(土)

会場：五福キャンパス
担当：経済学部同窓会越嶺会
いずれも詳細は同窓会ホームページに掲載予定です。

編集委員

山本 孝一 山藤 登
成瀬裕美子 谷口 恵子
田中 史子 高波 満里

橋本 明美
(比較社会 平成14年卒)



ヨット写真を使い、卒業生が制作した映像が放映されました。林先生との思い出写真が富山大学を背景に写し出され、映像の最後には林先生の歌声とともに、林先生の幼少の頃からの成長記録ともいえる写真が次々と映し出されました。参加者それぞれの林先生への思いが募り、会場には目に涙を浮かべている参加者の姿が見受けられました。

そしてサプライズとして、卒業生が作成した林先生の活動をまとめた新聞が号外として配られました。

第二部は林先生を通じて集まった参加者同士の交流会の場と

参加者の姿が見受けられました。
そしてサプライズとして、卒業生が作成した林先生の活動をまとめた新聞が号外として配られました。

第二部は林先生を通じて集まった参加者同士の交流会の場となり、最後に参加者全員で写真撮影を行って笑顔で林先生への思いを締めくくりました。

この会を通じて林先生急逝の知らせを受けてやり場のない悲しみを同じ気持ちの仲間とともに昇華し、そして、林先生への思いを胸に、新たに進んでいけるような気がしました。

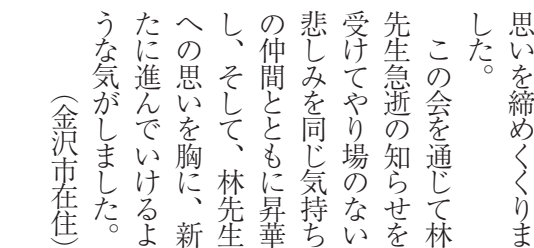
(金沢市在住)

人文学部国際関係論分野を担当されていた林夏生准教授が二〇二四年一月七日にご逝去されました。林先生は、一九九八年十月に富山大学人文学部に着任して以来、約二十六年にわたって教鞭を取り続けられ、ゼミの学生、留学生、サークルの学生など百七十名以上の学生たちに影響を与えてこられました。

二〇一五年からは、富山大学人文学部を拠点とする「ダイバースティラウンジ富山」プロジェクトを立ち上げ、民族的・宗

イラウンジの方、同僚の先生方などが次々と林先生の思い出を語りました。途中、林先生の弟さんからの動画メッセージが流され、皆で黙とうをして、先生のご冥福をお祈りしました。

第一部の最後には
みなさんから募った
林先生とのベストシ



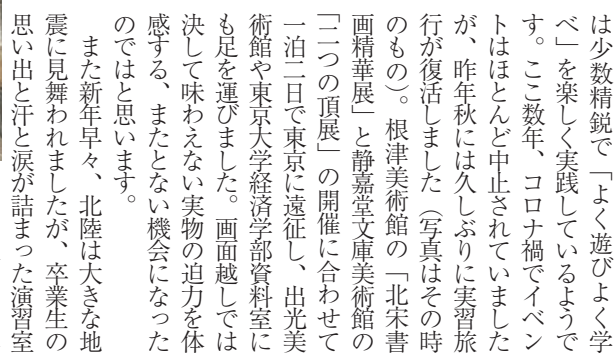
思想・歷史文化領域

歴史文化コース

東洋史分野

講師 林 美希

卒業生の皆さま、初めまして。元氣にお過ごしでいらつしやいますか。わたしは二〇二三年四月に人文文学部に着任したばかりなので、ようやく富山での三度目の春を迎えたところです。現在の東洋史分野は、二〇二〇年三月に澤田史分野は、定年を迎えられたあと、徳永洋介先生と林の二人体制で運営されています。とはいえ、その



のではないと思います。

では、激しい揺れで備えつけの本棚のネジが飛び書籍が落下。食器棚に三〇近く残っていた豚汁用(?)の小どんぶりも多くが失われ、学生に

最も利用されていたであろう大漢和辞典の語彙索引は四つに裂けてしまいました。図書館はさらに甚大な被害を受け、書架から落下した本を並べ直す復旧作業が続いています。

を、存知の方からすれば、隔世の感かと存じます。

悪化の一途をたどる日中関係の影響か、あるいは漢文訓読に馴染めないのか、最近とはかく東洋史という学問は敬遠されがちですが、幸い進級してくる新入生たち

決して明るいとは言えない世相ですが、卒業生の皆さまのご活躍は後輩となる学生たちにとっても大きな励みとなっております。時々、近況などお知らせいただき、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学位記授与式・祝賀会



二〇二四年三月二十二日(金)富山大学学位記授与式が挙行されました。午前の全体式典の後、午後一時よりホテルグランテラスで人文学部の学位記授与式が執り行われました。大西副学部長の開式の辞で始まりました。同窓会の米原寛会長が祝辞を述べ、旧制富山高高等学校百周年の年に卒業する学生たちにはなむけの言葉を送りました。

引き続き五年ぶりとなる卒業修了祝賀会を開催し、はじめて立食形式としました。参加者は記念撮影などそれぞれに名残を惜しみつつ、会場は華やかに盛り上がりつつありました。

体育会ヨット部から活動支援のお願い

創部から六十年、OBと現役の悲願だった全日本インカレ昨年度団体戦(琵琶湖)に初出場しました。今年度も予選を勝ち抜き、全日本インカレ団体戦(福岡)に出場することが決定。

現在、更なる高み(団体戦10位以内、国立大学3位以内)を目指して練習中。ただ、部員の安全確保のための救助艇が老化しており、買い替えが必要になってきています。是非ともご寄附をお願いいたします。

富山大学体育会ヨット部
OB会会長 荒木 正一
(経済学部 昭和55年卒)
関西支部長 井上 敏宏
(経済学部 昭和62年卒)
OB 清野 敬史
(人文学部 平成27年卒)
(連絡先) 関西支部 井上
tuyic1962@gmail.com

●活動支援のお願い

富山大学のホームページから手続きができます。課外活動支援基金に寄附をお願いします。

- ・ご意見欄に「ヨット部指定寄附」と記載してください。
- ・寄附金は税制上の優遇措置が受けられます。

- ・ヨット部に寄附していただいた個人、団体様のお名前を購入予定のレスキューボートの銘板に記載させていただきます。
- ・(ご希望の方のみ)

ヨット部に縁の無かった方も、私たちを育てていただ

OB会の寄付

2022年度385万円
2023年度365万円



富山大学 HP → 教育・学生支援 → 課外活動 → 課外活動支援基金

研究室

から

言語文化領域

ヨーロッパ言語文化コース

ドイツ言語文化分野

教授 黒田 廉

卒業生の皆さま、いかがお過ごしでしょうか。

私が着任したのは、もう二十五年前にもなります。当時のドイツ言語文化研究コースは、語学または文学を専門とする教員六人を抱え、充実した教育体制を整えていました。それが、二〇二二年三月

に山本孝一先生と北村純一先生が、二〇一四年に別本明夫先生が定年退職されて、教員三人となりました。二〇二二年には宮内伸子先生が定年を迎えられ、現在は語学専門の阿部美規先生と私の二人だけで、文学の教員は不在となってしまいました。ヴォルフガング・ツォウベク先生も昨年退職され、常勤のネイティブ教員も欠くこととなりました。文学の方は教養教育院の名教基樹先生の、ドイツ語のコミュニケーションは非常勤講師のルート・ライヒェルト先生の力をお借りしながら、これまでの教育を可能な限り維持しようとして努力しております。

富山大学のドイツ語と言えば、様々なイベントを思い浮かべる方



てきております。

逆境に負けず、これからは学生のドイツ語という言葉と文学への理解を深めていきたいと思えます。皆さまには、今後とも温かく見守って下さいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

なお、大変残念なことに、北村先生は昨年九月に他界されました。謹んで、ご冥福をお祈りいたします。

もういつしやるかもしれません。確かに過去には、新二年生歓迎会に始まり、金沢大学との合同ドイツ語合宿、クリスマス・パーティー、卒業生送別会等、様々な催しがあったことは事実です。ですが、コロナ禍により、このような行事はすべてなくなってしまいました。現在、かつてのような活発な交流を復活させようと、少しずつ企画しているところです。

以上のように、ドイツ語教室をめぐる環境は厳しいものがありますが、真面目な学生が多く、辞書を引きながら、こつこつと勉学に励む風景は以前と変わりありません。三年生、四年生と学年が進むに従って、着々とドイツ語力を高め、語学または文学のテーマでドイツ語要旨のついた立派な論文を書き上げて、卒業していきます。学生数も一学年二人ぐらいと低迷していたのが、今年度は六名と久しぶりに多くなりました。他コースからの授業履修者も増えて

卒業生進路状況

出典『人文学部案内2024』（富山大学人文学部）

人文学部 人気の就職先は？

トップは「公務」

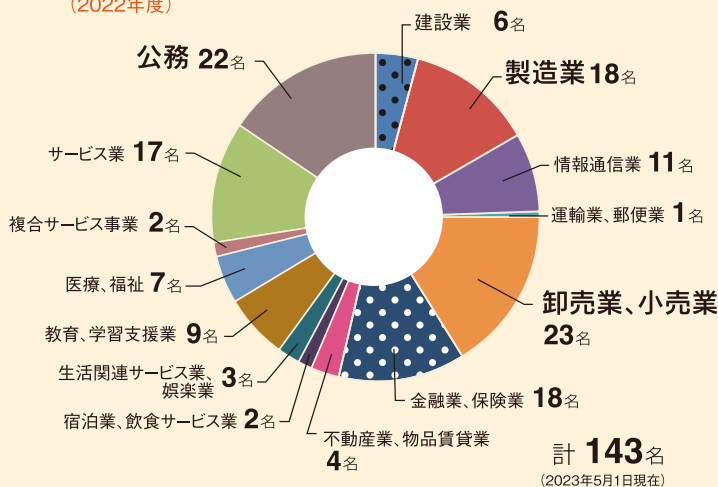
富山大学人文学部でのさまざまな学びを通じ、「幅広い教養」と「深みのある専門的知識」を身につけて卒業した先輩たちは、とても多彩な就職先で活躍を続けています。

中でも人気なのは「公務」と「卸売・小売業」、「製造業」で、卒業生の3人に1人はこのいずれかの業種で就職をしています。幅広い知識だけでなく、とりわけ人文学部が重視する「さまざまな背景を持つ多様な人々とコミュニケーションをはかり、共に社会に貢献するチカラ」が求められる仕事だからこそ、卒業生たちが存分に能力を発揮でき、高い評価につながっています。

また、北陸地域の「人づくり」の拠点として、富山・石川をはじめとする「地元」の多くの企業に評価され、卒業生の半分近くが採用されていることも、富山大学人文学部の特長と言えるでしょう。

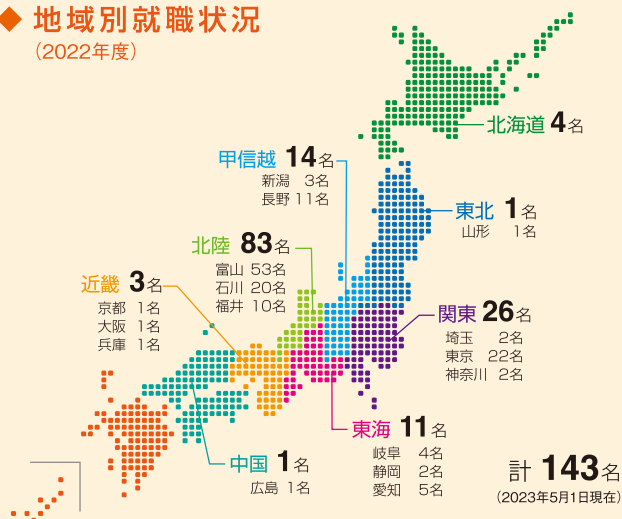
◆ 業種別状況

(2022年度)



◆ 地域別就職状況

(2022年度)



卒業生の就職先 トップ3

(2018～2022年度)



1 公務

都道府県庁、市役所、区役所、町役場、警察、図書館、埋蔵文化財センター…



2 卸売業、小売業

スーパーマーケット、デパート、書籍・衣料品・自動車・家電などの販売店…



3 製造業

食品、飲料、機械、医療品、印刷、電気・電子機器…

◆ 主な進路 (2018～2022年度)

公務

富山県庁
富山・高岡・射水・黒部・砺波・南砺・氷見・魚津市役所
入善・朝日・立山町役場
富山地方検察庁
石川・福井・長野・山梨県・北海道庁
金沢国税局
金沢市役所
富山労働局
気象庁 など

製造業

(株)不二越
(株)スギノマシン
三協立山(株)
富士化学工業(株)

三晶技研(株)
(株)村田製作所
(株)チューエツ
日本食研ホールディングス(株)
ブルボン(株) など

卸売業、小売業

アルビス(株)
(株)大阪屋ショップ
(株)メガネのハラダ
トヨタモビリティ富山(株)
石川日産自動車販売(株)
(株)ニトリ
(株)紀伊國屋書店
(株)クスリのアオキ など

金融業、保険業

(株)北陸銀行

(株)富山銀行
(株)富山第一銀行
富山・高岡・新湊信用金庫
(株)北國銀行
(株)第四北越銀行
野村證券(株)
明治安田生命保険相互会社
(株)ゆうちょ銀行
(株)八十二銀行 など

情報通信業

北日本放送(株)
(株)ケーブルテレビ富山
(株)インテック
(株)福井新聞社
(株)北國新聞社
NTTデータカスタマーサービス(株)
三菱電機ビジネスシステム(株)

(株)チューリップテレビ
(株)北日本新聞社 など

その他の業種

教育、学習支援業
建設業
サービス業
医療、福祉
運輸業、郵便業
複合サービス事業 など

進学

富山大学大学院
東北大学大学院
名古屋大学大学院
大阪大学大学院
北海道大学大学院
奈良女子大学大学院 など

人文学部のあゆみ 第九回

旧制富山高等学校の「生徒便覧」

富山大学准教授 入江 幸二



二〇二三年四月に「富山大学アーカイブズ歴史資料館」がオープンしたが、昨年人文学部でも資料展示室を人文棟二階に設け、人文学部の歴史にかかわる資料の収集・展示を始めた。今はまだ旧制富山高等学校にまつわる品々（馬場はる氏と南日恒太郎校長の写真や校旗など）が中心で、文理学部・人文学部のものはほとんどなく、一般公開も数回実施したのみである。今後さらに発展することを願いつつ、今回は旧制高校の「生徒便覧」を紹介してみたい。

これは本学部の鈴木景二教授（日本史）が入手されたもので、大きさは縦十五センチ、横十センチ、厚さ七ミリのいわゆる生徒手帳である。本文は一



当時の生徒たちへの配慮がうかがえる。



八頁、他に空白の頁と時間割記入欄が十八頁ある。内容については、学校の沿革、綱領（進取・反省・協調などが生徒としての心得として挙げられている）、校歌、服装規定、日常生活や健康面などの心得、事務的な手続きや宿舎（青冥寮）に関する規定、徴兵に関する説明、教職員の氏名など多岐にわたる。

時代を物語る内容として興味深いのは、まず「社会科取捨二關スル高専校長ノ決議事項」（大正十五年五月）が記載されている点である。いわゆる「左傾思想」の研究を禁じるものであるが、ちょうどこの頃富山高校でもマルクス主義を研究する社会主義研究会が組織されている（当時の学生運動資料に関しては『北日本新聞』二〇二一年六月五日の記事を参照されたい）。もう一点は「衛生上ノ注意事項」という項目で、結核などの初期症状や予防法について記されている。寮生も多かった

現在の大学ではこうした生徒手帳のようなものはないが、それに近いのは『教養教育ガイド』と『専門科目履修の手引き』であろうか。学生の私生活に関わる事柄は記されていないものの、旧制高校時代と比べ複雑になった履修方法について丁寧に記載されている。今後はこういった新制大学以降の資料についても系統だてて集めることができる、人文学部の歴史を振り返ることが容易になるであろう。同窓生の皆さまには、今後ご自宅等で処分するものなかに文理学部ないし人文学部に关わるものがあれば、大学アーカイブズに一度ご相談いただければ幸いです。



新刊案内

人文学部ゆかりの方々の新刊を紹介します。

『地域の想いに出会う 富山県滑川市と上市町の調査記録（地域社会の文化人類学的調査32）』

野澤豊一（准教授）、藤本武（教授）編、富山大学人文学部文化人類学研究室、2022年5月刊

『公武政権の強豪と協調 京都の中世史 3』

長村祥知（講師）ほか著、吉川弘文館、2022年7月刊

『まつりは守れるかー無形の民俗文化財の保護をめぐる』

石垣悟（文化人類学平成9年卒）編著、八千代出版、2022年9月刊

『宗教2世』

荻上チキ編著、齊藤正美（院日本・東洋文化平成9年卒）ほか著、太田出版、2022年11月刊

『墨書土器と文字瓦 出土文字史料の研究』

吉村武彦ほか編、鈴木景二（教授）ほか執筆、八木書店出版部、2023年1月刊

『あの人が選んだ絵本ガイド100 児童書店、家庭文庫の10人の専門家がセレクト（momo book）』

momo編集部編、杉原由美子（中国文学昭和53年卒）ほか執筆、マイルスタッフ、2023年3月刊

『古文書の科学 料紙を複眼的に分析する』

渋谷綾子、天野真志編著、文学通信、2023年3月刊、協力者の富田正弘氏は元教員

『長尾為景 シリーズ・中世関東武士の研究第34巻』

黒田基樹編著 久保尚文（史学昭和44年卒）ほか執筆、戎光祥出版、2023年3月刊

『龍光院本 承久記絵巻』

長村祥知（講師）編著、思文閣出版刊、2023年3月刊

『ルールの科学 方法を評価するための社会学』

佐藤裕（教授）著、青弓社、2023年4月刊

『友』

ベク・ナムリョン著、和田とも美（准教授）訳、小学館、2023年4月刊

『ルネ・ヴィヴィアン伝』

ジャン＝ポール・グージョン著、中島淑恵（教授）訳、水声社、2023年6月刊

『源頼朝と木曾義仲 対決の東国史 1』

長村祥知（講師）編著、吉川弘文館、2023年8月刊

『身の維新』

田中聡（文化構造論昭和60年卒）著 亜紀書房刊、2023年12月

会費の納入状況

年会費納入状況をお知らせいたします。

令和5年6月から令和6年3月まで165名の方から165,000円の年会費を納入していただきました。

また16名の方から終身会費160,000円を納入していただきました。

ご支援ご協力厚く御礼申し上げます。

理事会

二〇二三年度

第一回、六月二十一日(水)

第二回、十月十八日(水)

第三回、十二月十三日(水)

総会、人文の集い、理事会の詳細についてはホームページもご覧ください。会則や役員名簿等もご覧になることができます。

第11回 「人文の集い」ご案内

日時 2024年10月19日(土)
 講演 10:00～ 於第1 講義室
 昼食会 11:50～ 於第2 講義室
 会場 富山大学人文学部1階
 講演:「小、中、高、大の教員遍歴」
 講師:上越教育大学名誉教授
 廣瀬 裕一(哲学昭和51年卒)



第10回「人文の集い」は、十月二十八日(土)、富山大学五福キャンパスの人文学部棟で開催されました。講師には橋本明美氏(比較社会 二〇〇二年卒)をお迎えしました。

報告

第十回 人文の集い

橋本さんはイタリアで購入された華やかなスーツ姿で登壇され、市役所からJNTO(日本政府観光局)に派遣され、ローマ事務所発足に関わったご経歴を語っていただきました。大変興味深いお話に一時間半があつという間でした。

引き続き、橋本講師、齊藤学部長を囲み、隣室で昼食交流会を開催しました。最初に第十回を迎えた「人文の集い」の生みの親である松平前同窓会長が挨

拶しました。参加者が近況や講演の感想を述べた後、和やかに歓談が続きました。

◆ ◆ ◆

総会の記念講演は参加費無料で、どなたでも参加できます。「人文の集い」の講演も参加費無料でどなたでも参加できます。

総会、人文の集いとも同窓会事務局へお申し込みください。電話やFAXの他、同封ハガキもご利用ください。多くの方のご参加をお待ちしています。詳しくはHPに掲載いたしますので、ご覧ください。

2024年度 総会のご案内

日時 2024年7月13日(土)
 総会 13:30～ 講演会 14:40～
 交流会 16:00～
 会場 インテック タワー111ビル
 4階 スカイギャラリー(富山市牛島新町5-5)
 講演:「ヘルン文庫のことなど」
 講師:前富山県立図書館長
 中崎(中尾)圭子(中国語中国文学昭和61年卒)

報告

二〇二三年度

同窓会総会

二〇二三年度人文学部同窓会総会が、七月八日(土)とやま自遊館で開催されました。



会長挨拶の後、同窓会名誉会長でもある人文学部長齊藤大紀先生の挨拶がありました。

続いて議事に入り二〇二三年度事業等が承認されました。二〇二二年度は総会と「人文の集い」は対面で開催しましたが、学位記授与式後の卒業祝賀会は実施しませんでした。

次いで二〇二三年度事業計画案及び予算案について協議し、原案通り承認されました。

総会終了後、藤本幸夫名誉教授による講演「人文学部と私の朝鮮学研究」を拝聴しました。



富山大学在任中を含む半世紀以上にわたるご研究一筋のお人柄があらわれるお話に参加者一同心を打たれました。

引き続き交流会を開催しました。藤本先生、齊藤学部長を囲みアメリカや長野県からかけつけた同窓生も含め和やかに交流を深めました。

人文学部教員異動

- 退職(令和6年3月)
 ○姜 信善(心理学)准教授
 ○樋野幸男(言語学)教授
 ○山崎けい子(日本語教育学)教授
 ○次山 淳(考古学)教授
 転出(令和6年3月)
 ○直原康光(心理学)講師
 新学部長就任(令和6年4月)
 ○大西宏治(人文地理学)教授
 採用(令和6年4月)
 ○次田 瞬(哲学)講師
 ○田部知季(日本文学)准教授
 ○笠根 唯(英米言語文化)講師

- 謹んでご冥福をお祈りいたします。
- 北村 純一(名誉教授 独文)
 令和5年9月1日ご逝去
 高宮 美雪
 (中国語中国文学 昭和59年卒)
 令和4年7月ご逝去
 田代(田中)久勝
 (英文学 昭和37年卒)
 令和4年5月6日ご逝去
 林 夏生 准教授 国際関係論
 令和6年1月7日ご逝去
 藤田(八木沢)祐子
 (国文及び中文 昭和37年卒)
 令和5年1月5日ご逝去
 古山 重吉
 (国文及び中文 昭和35年卒)
 平成30年ご逝去
 眞館 明香 社会学 平成25年卒
 平成28年ご逝去
 宮寺 優(史学 昭和44年卒)
 令和4年6月17日ご逝去
 山崎 幸雄(元教官)
 令和4年6月13日ご逝去

- 同窓会事務局異動
 ○新任 高波満里(令和5年6月)
 ○退任 村本浩子(令和5年7月)